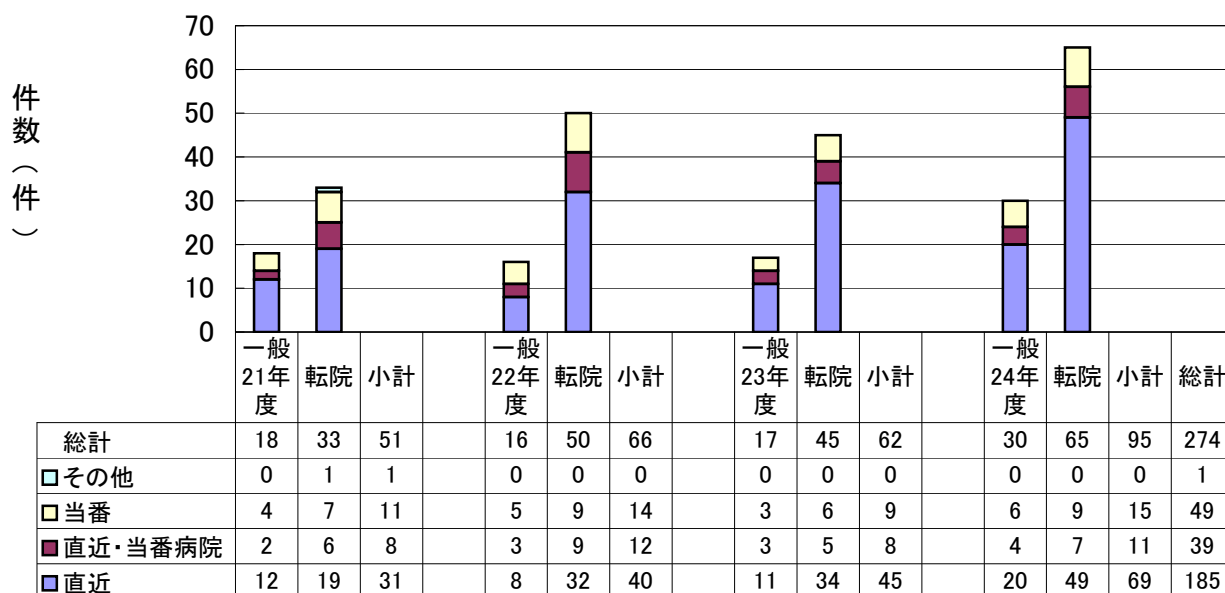


東京都母体救命搬送システムによる搬送事例の状況

平成21年3月25日から平成25年3月31日報告受理分 274件

1 搬送の種類

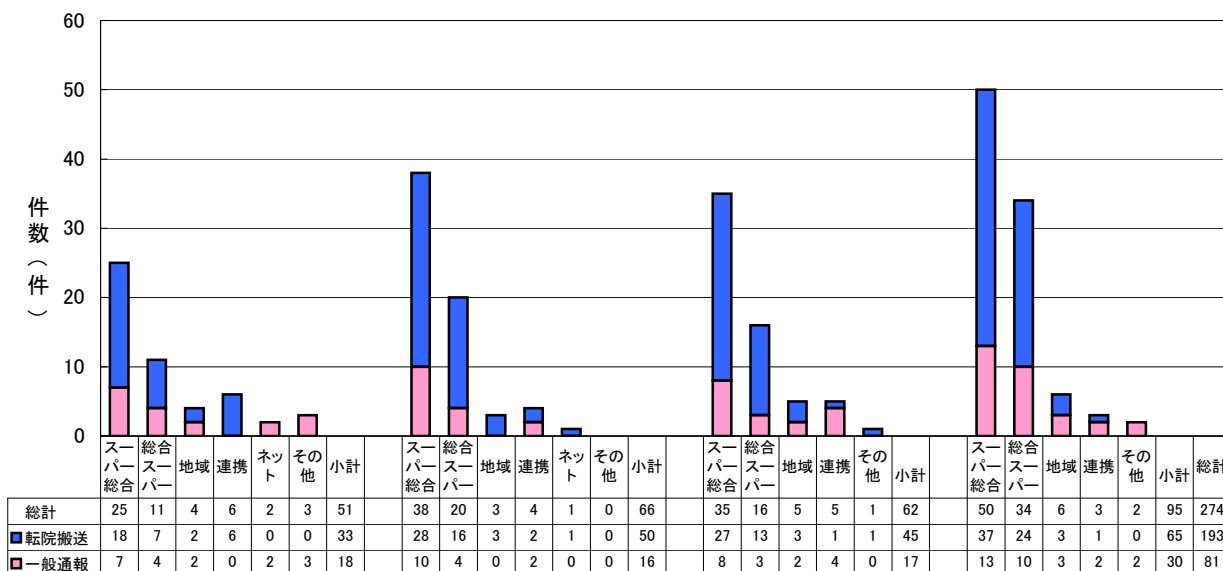
- 平成23年度までは約60件で推移していたが、24年度は95件（前年度比約5割増）だった。
- 各年度とも一般通報が約3割、転院搬送が約7割となっている。
- 一般通報、転院搬送とも4分の3以上が直近かつ当番病院又は直近病院に搬送されている。
※当番病院：第一当番のスーパー総合周産期センター



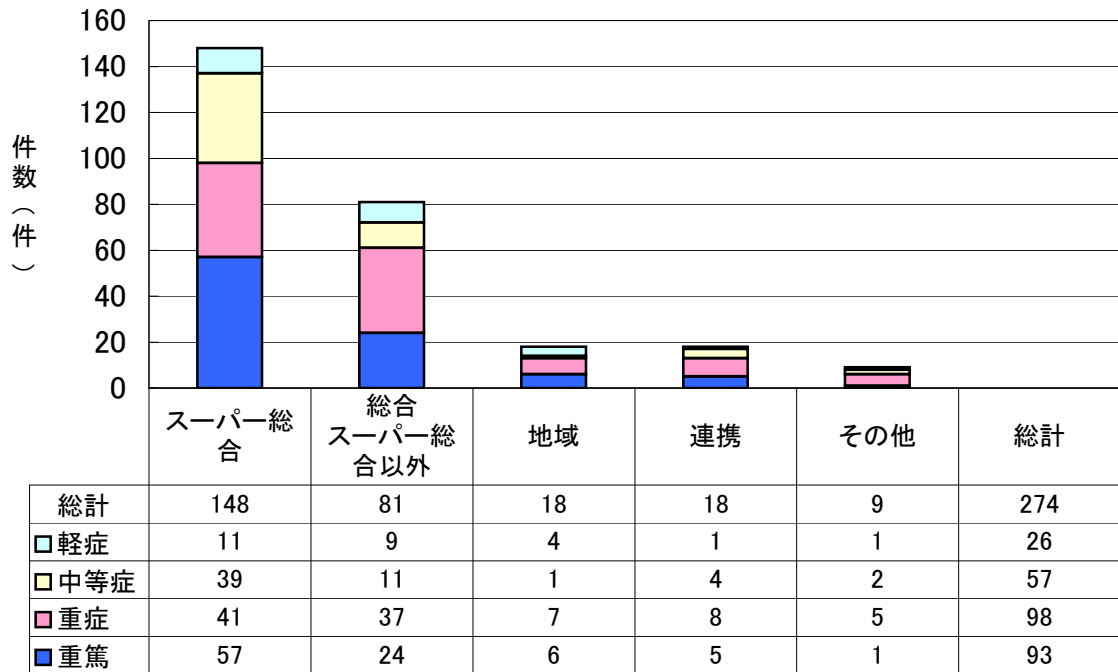
2 病院の種類

- スーパー総合周産期センター4病院には、平成22年度以降、全体の半数以上が搬送されている。
- スーパー総合周産期センターを含む総合周産期母子医療センターには、平成22年度以降、全体の8割以上が搬送されている。

(搬送の種類別)

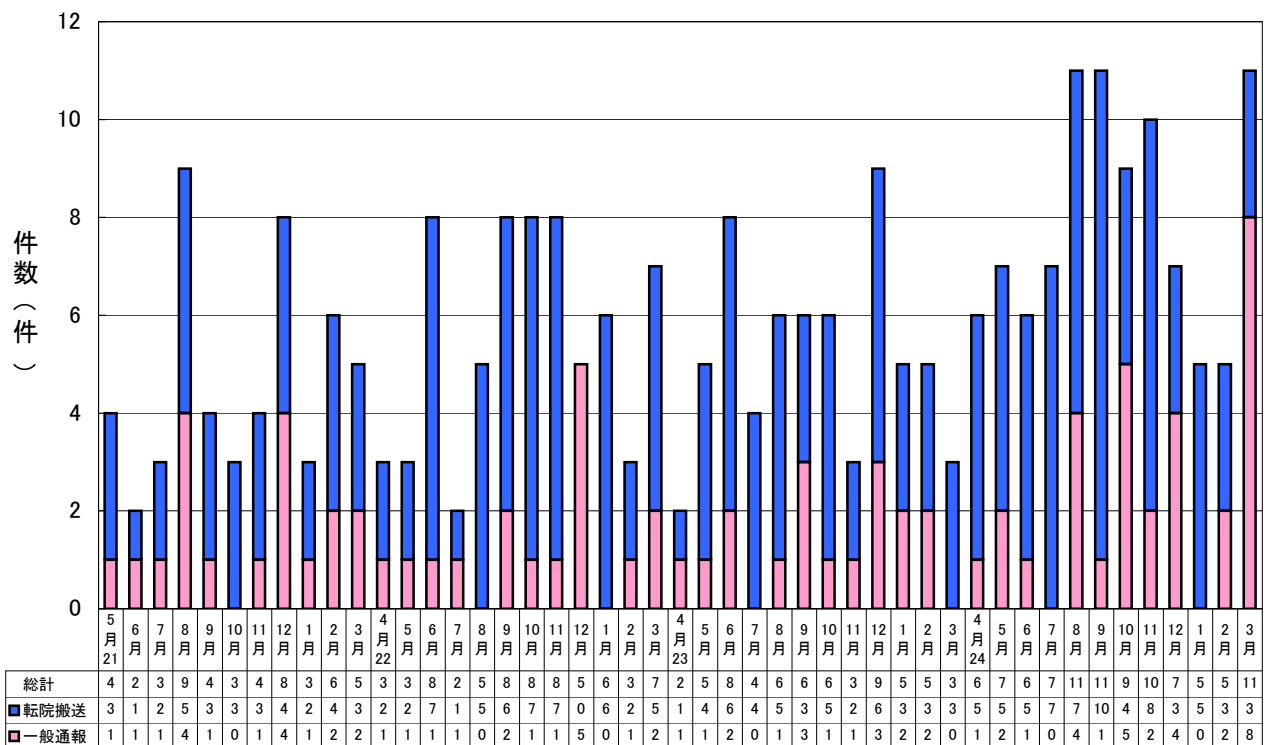


(累計 (重症度別))



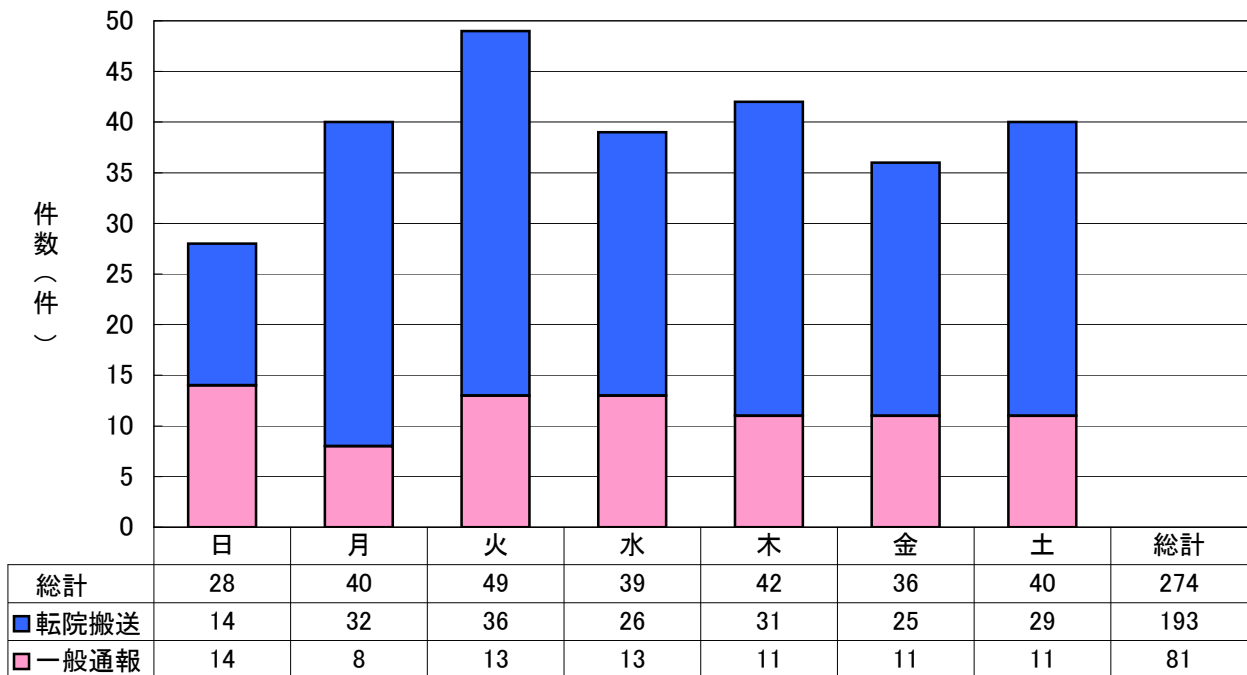
3 月別 (搬送の種類)

- 平成21年3月25日から運用したが、21年3月及び4月は事例はなく、5月以降から事例が報告された。
- 24年8月、9月、11月及び25年3月は運用開始以降初めて月10件を超えた。
- 22年12月、24年10月、12月及び25年3月を除いて、どの月も転院搬送のほうが多い。



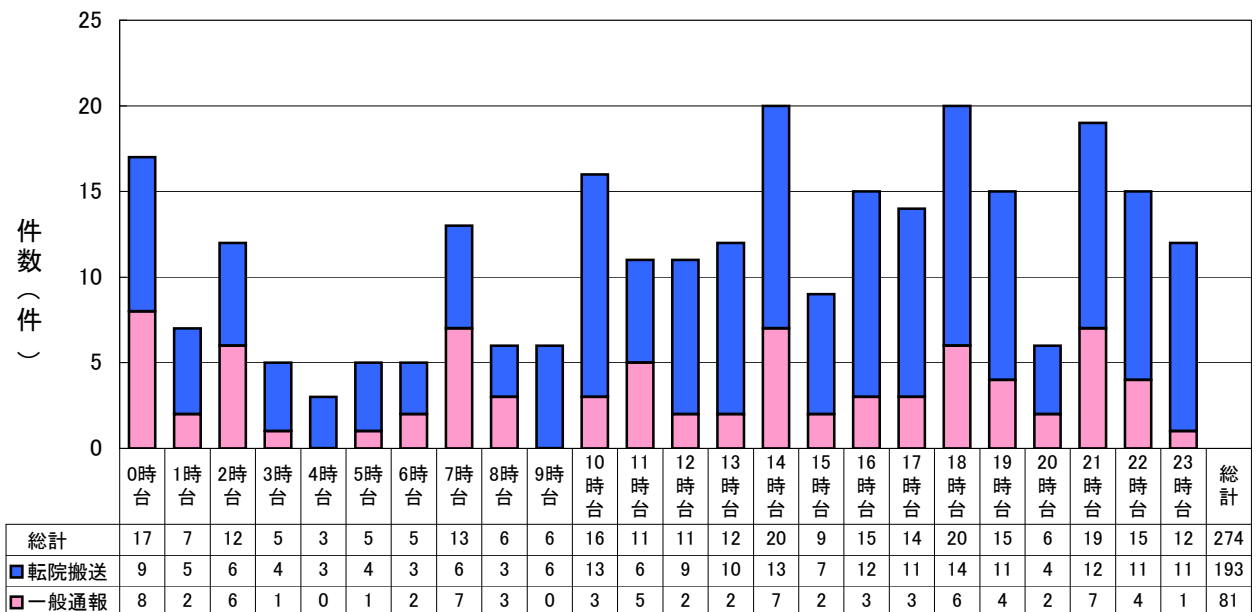
4 曜日別（搬送の種類）

○ 転院搬送は火曜日が多く、一般通報では日曜日、火曜日及び水曜日が多い。



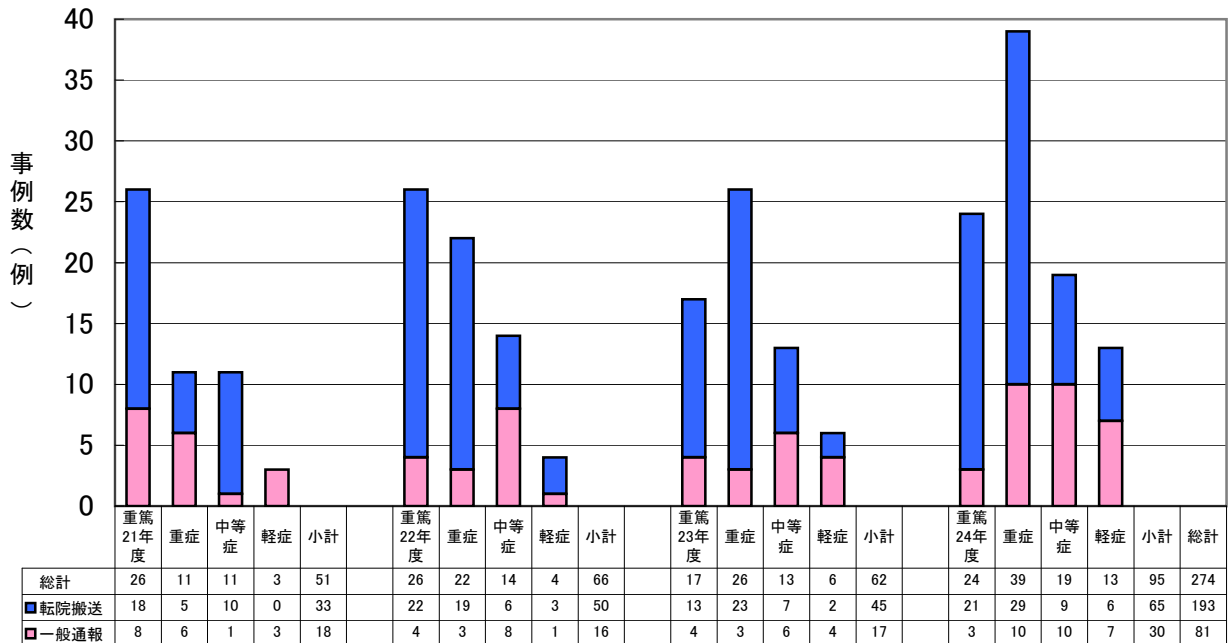
5 時間別

○ 覚知の時間でみると、転院搬送は18時台が多い。
○ 一般通報では、0時台が多い。



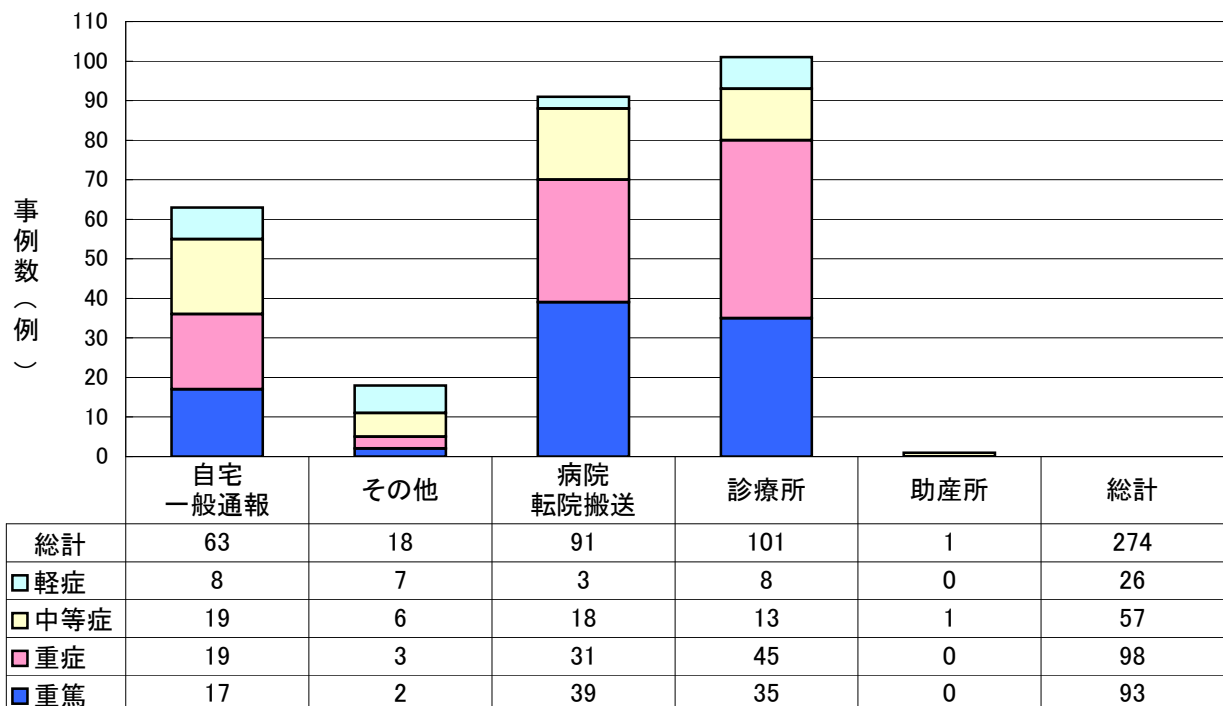
6 母の重症度（病院報告）

- 病院で確定診断が出てからの重症度では、スーパー母体救命に相当すると考えられる重篤と重症を合わせた数が、各年度とも全体の約7割を占めている。
- 平成22年度までは重篤が最も多く、平成23年度以降は重症が最も多かった。



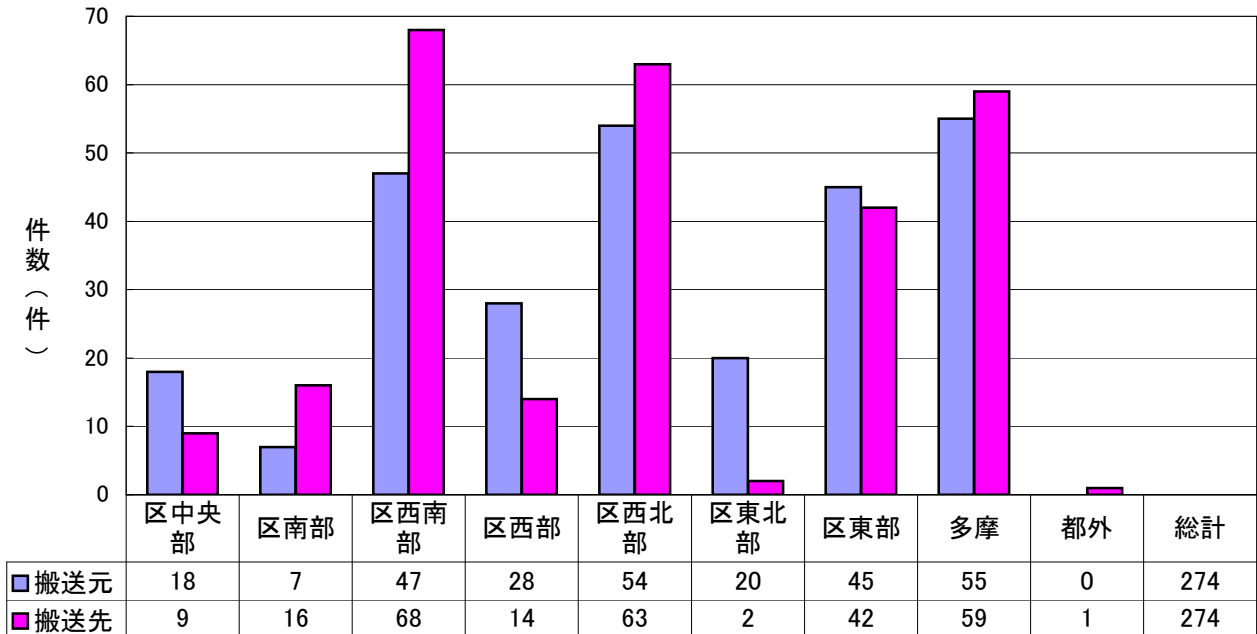
7 搬送元医療機関等

- 一般通報はほとんどが自宅からの搬送である。
- 転院搬送は、病院や診療所からの搬送が多く、助産所からは1件であった。



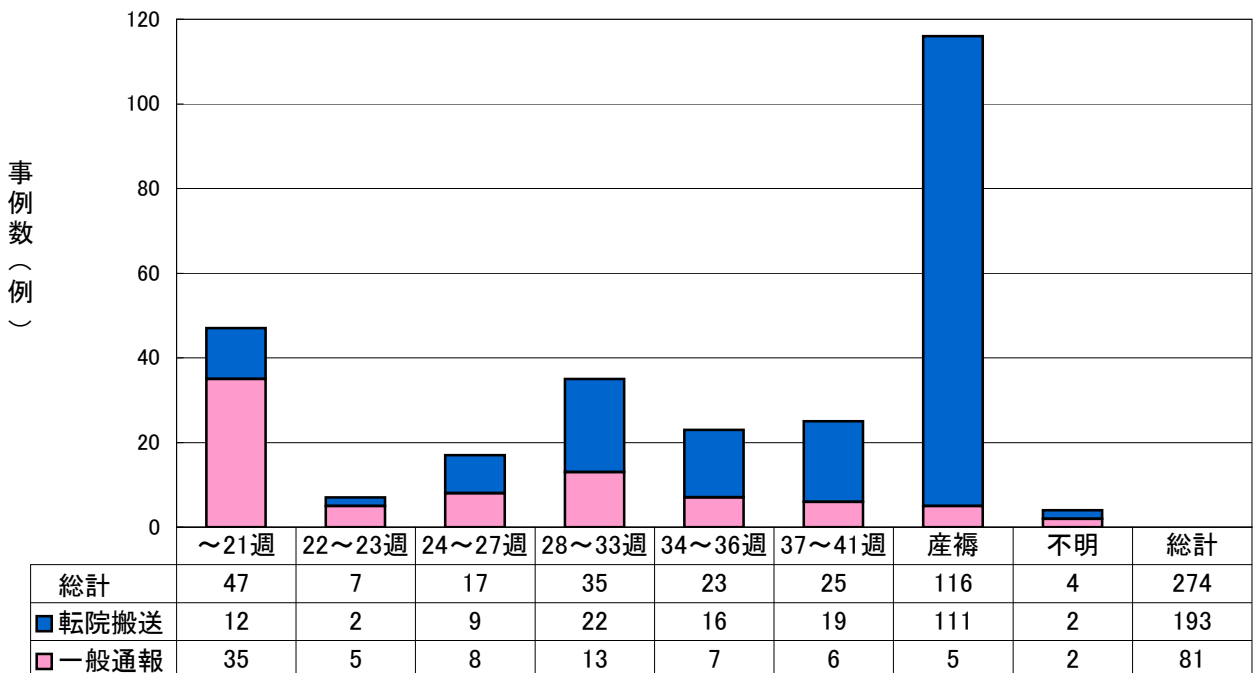
8 ブロック別搬送元及び搬送先

- 搬送元ブロックは、多摩、区西北部、区西南部、区東部の順が多い。
- 受入となる搬送先ブロックでは、区西南部が最も多く、次に区西北部、多摩、区東部の順となっている。多摩では区部からの搬送も受け入れている。



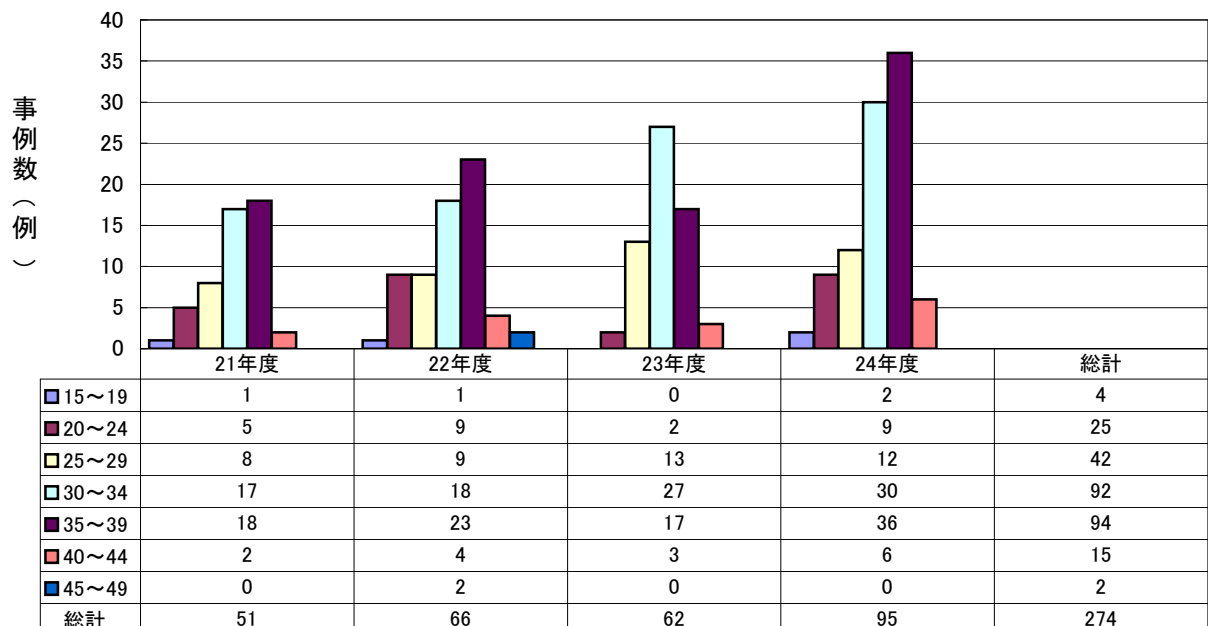
9 週数

- 産褥が116例(42%)で最も多く、正期産である37週以上が25例(9%)であった。
- 21週以下は異所性妊娠や流産等であった。

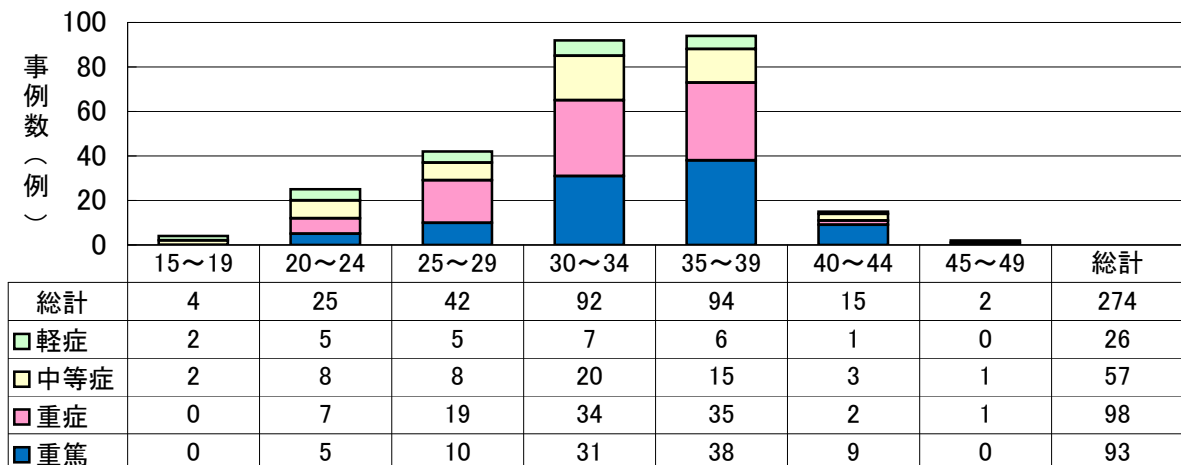


10 母の年齢

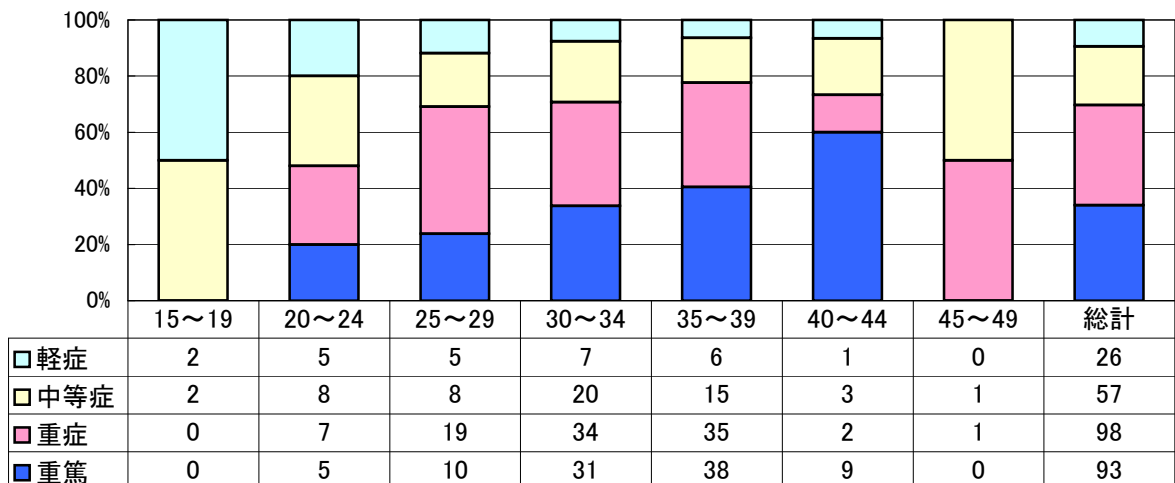
- 平成23年度を除き35歳～39歳の区分の事例が最も多い。
- 重症度別では、年齢が高いほうが、重篤の事例が多く、割合も大きくなっている。



(累計(重症度別))

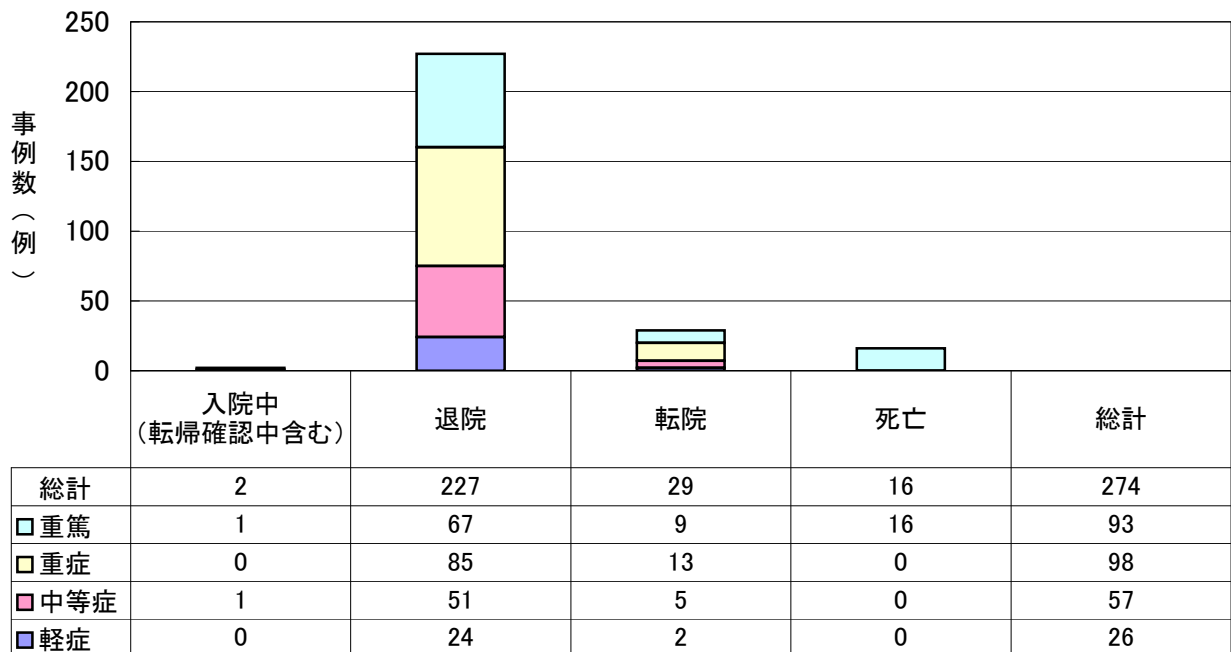


(割合(重症度別))



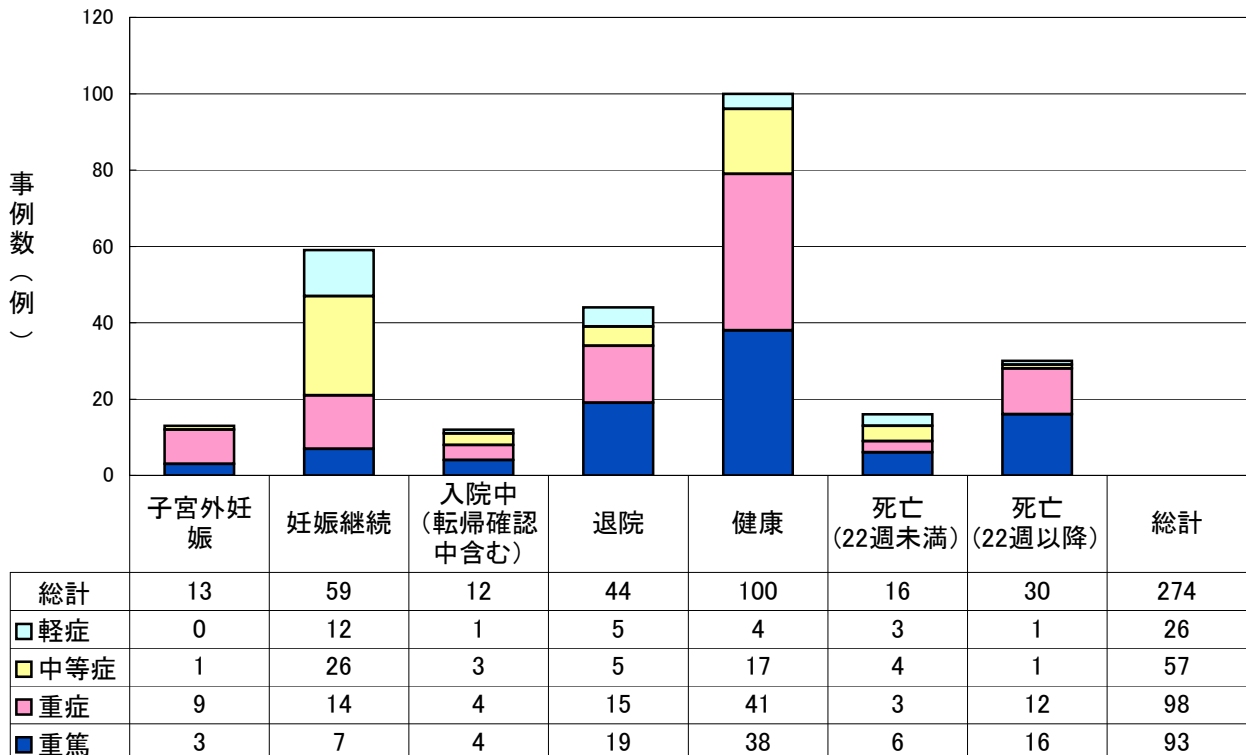
11 母の転帰（母の重症度別）

- 227例(83%)が退院し、29例(11%)が搬送元等に転院した。
- 16例(6%)が死亡で、重症度は全て重篤であった。



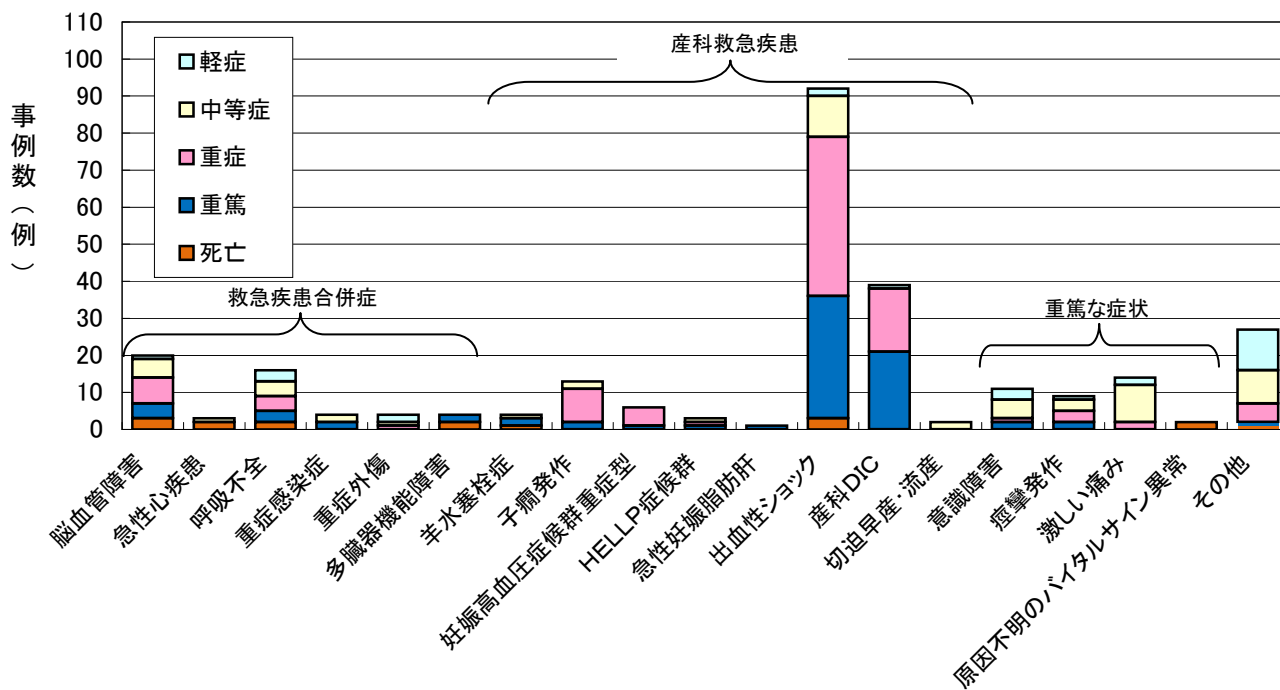
12 児の転帰（母の重症度別）

- 母が重篤又は重症であっても、児は退院・妊娠継続した事例が多い。
- 一方で、胎児死亡(22週以降)となった事例が30例(11%)あった。
- ※ 平成25年1月の協議会資料の「死亡(22週未満)」の中に「子宮外妊娠」が含まれていたため修正



13 スーパー母体救命対象症例別疾患（診断後）

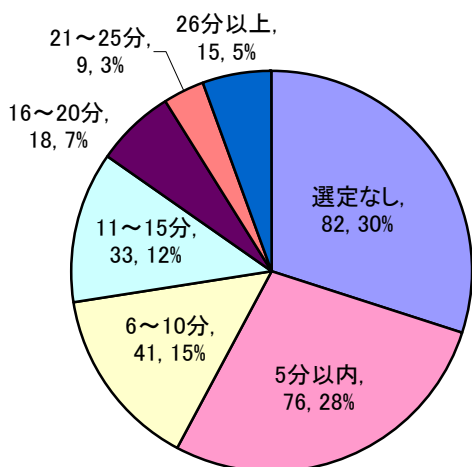
- 入院後診断された疾患名では、出血性ショック、産科DIC、脳血管障害が多い。
- 重篤・重症の事例では、脳血管障害、呼吸不全、多臓器機能障害といった、救急疾患合併症と、出血性ショック、産科DICなどの産科救急疾患が多い。
- 死亡事例は、救急疾患合併症が多い。



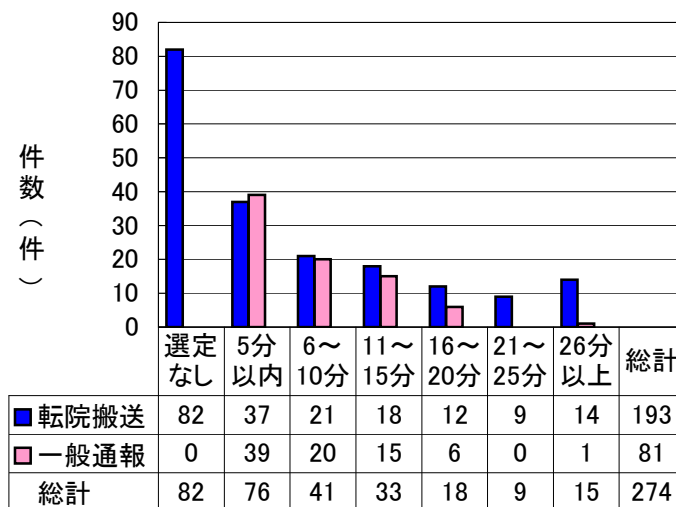
14 病院選定時間（平均10.3分、中央値7.0分、「選定なし」含まず）

- 病院選定時間の多くは15分以内であった。
- すでに搬送先が決定していた事例を除くと、選定に要した時間は、平均10.3分であった。
- ※ 選定なし：搬送元で既に搬送先を確保済みの場合

(割合)



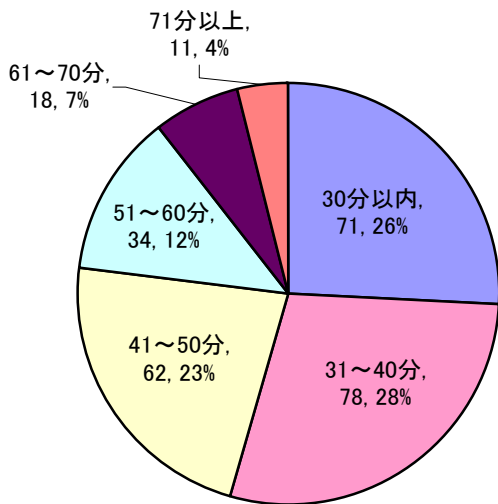
(分布)



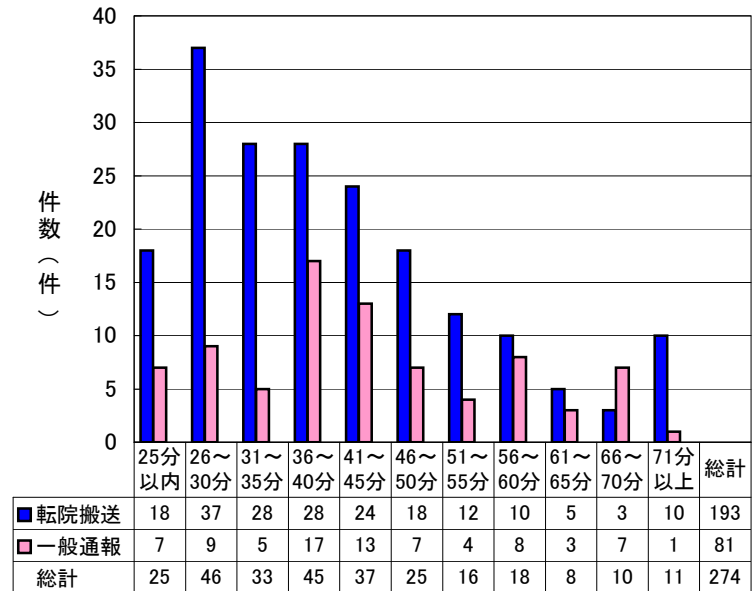
15 入院まで(覚知～病着)の時間 (平均41.5分、中央値39.0分)

- 覚知から病着までの時間の多くは50分以内であった。ただし、60分を超えるものが29件(11%)あった。
- 時間を要した事例は、転院搬送では、処置中であつたり、医療機関同士の連絡に時間を要した事例等であつた。
- 一般通報では、救命救急センターから産科への確認に時間を要した事例等であつた。

(割合)



(分布)



16 搬送(覚知から病着まで)の平均時間と病院選定平均時間

- 転院搬送は、一般通報に比べ、現場に到着してから現場を出発するまでの時間が短い傾向にある。
- 転院搬送では、すでに搬送先病院が決定している場合は指令室での選定時間がないが、選定をしたものについては、病院決定まで平均12分程度となっている。

